

鹿児島県阿久根市脇本地域から産出した オオバタグルミ化石 *Juglans cinerea* (Juglandaceae)

多久島 徹

Juglans cinerea (Juglandaceae) from Wakimoto in Akune City, Kagoshima Prefecture

Toru TAKUSHIMA

キーワード：オオバタグルミ, 植物化石

はじめに

2008年に阿久根市脇本でクルミ科クルミ属と思われる植物化石が榊俊輔氏（南さつま市立万世小学校教諭）により採集された。採集された化石は合計6個で、長さが5cm程度のものが3個、4cm程度のものが3個であった。

2020年、鹿児島大学総合研究博物館特任助教田金秀一郎氏に同化石の同定を依頼したところ、大型のものはオオバタグルミ *Juglans megacinerea* R.W. Chaney であり、小型のものについても、これまでに報告されているオオバタグルミのサイズに比べると小型ではあるが、オオバタグルミの可能性が高く、サイズの小ささは若い果実によるものかもしれない、という見解をいただいた。

オオバタグルミ化石は、九州では上天草市大矢野町北部に分布する大矢野層の基底に近い泥岩層からの産出が報告されている（長谷ら, 2019）が、鹿児島県では初めての産出であり、また、国内における産出分布の南限となる。

今回、この化石について報告する。

1 産出地の位置及び地質概要

産出地は鹿児島県阿久根市脇本の国道3号線沿いにある（図1, 図2）。

産出地周辺の地質は、大木ら（2000）により詳細な報告がなされている。産出地の露頭（図3）に見られる上部のやや苔が生えかかった礫層に含まれるマトリックスには、阿多鳥浜火砕流堆積物に見ら



図1 産出地の位置

れる緑色の角閃石が含まれており、大木ら（2000）で報告された小原砂礫層相当層と考えられる。本化石が産出した地層は不明であるが、小原砂礫層のその下位にあたるため、大木ら（2000）で報告された第四紀海成層の多田層の可能性はある。



図2 産出地周辺の地形図（国土地理院地図に加筆）



図3 産出地の露頭（2007年 神信裕氏撮影）

2 化石について

採集された化石の写真を図4に示す。Cは一部欠損しているが、各化石とも保存状態は良好である。また、A～Fのすべての化石において、オオバタグルミに特徴的な深い溝がある。各化石のサイズは、

表1のとおりである。

表1 阿久根市脇本産オオバタグルミ化石のサイズ

標本	長さ	直径	殻の厚さ
A	5.6	2.5	0.9
B	5.1	3.0	—
C	4.8	3.0	0.8
D	3.8	2.5	0.6
E	3.8	2.2	0.5
F	3.4	2.3	—

[cm]

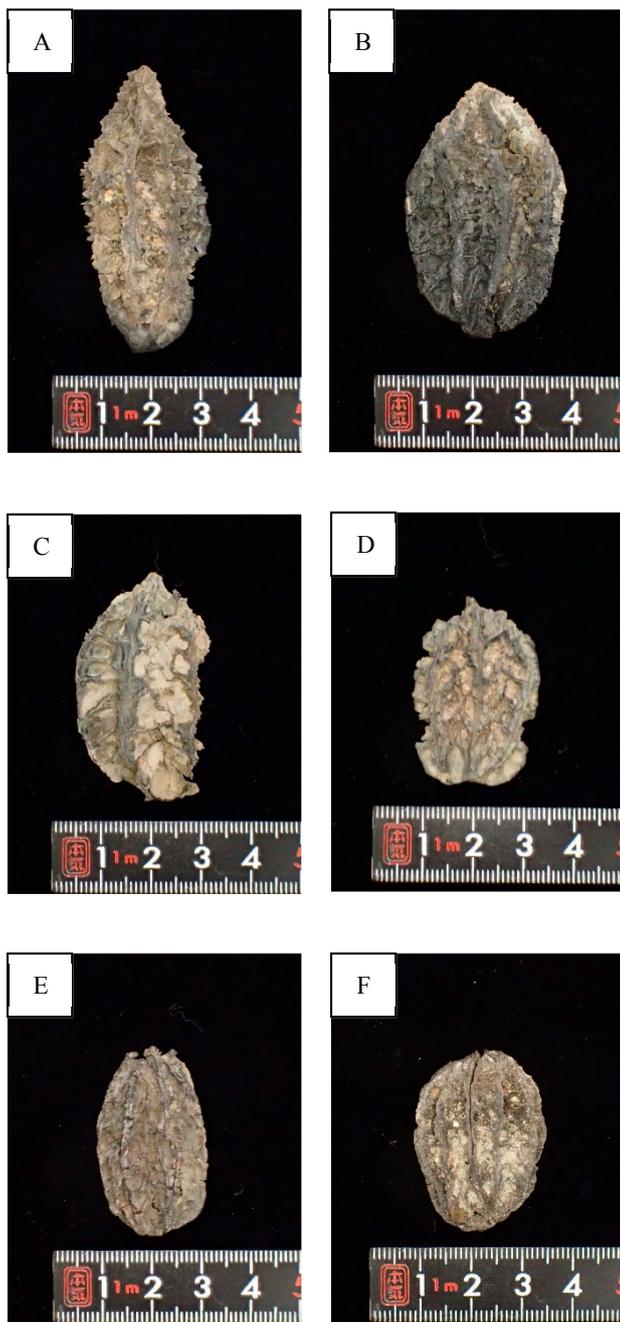


図4 阿久根市脇本産オオバタグルミ化石

なお、殻の厚さについては、測定は最も厚い部分で行った。A, C, D, Eは殻が割れて内部が見えている状態であるため、測定できたが、B, Fは、殻が割れずにそのまま押しつぶされた状態であるため、測定できなかった。

田金秀一郎氏の同定によると、A～Cの化石はやや小型ながらも、これまでに国内で報告があったオオバタグルミの範囲内に十分に含まれ、オニグルミや北米のバタグルミの変異幅とは値が重複しないという見解をいただいた。なお、熊本県の大矢野層産のオオバタグルミ化石2個体も、長さ4.8cm・直径2.5cm、長さ5.0cm・直径2.3cmであり（長谷ら、2019）、国内の中ではやや小型である。

D～Fの化石は、小型であるため、断定には至らないが、構造的にはA～Cに類似しており、これらもオオバタグルミの化石の可能性が大きい。

3 まとめ

今回、鹿児島県では初産出となるオオバタグルミの化石を報告した。オオバタグルミは約110万年前に絶滅した示準化石であるため、周辺地域の地質や古環境を解明する重要な手がかりとなる。

本化石が産出した地層は、まだ不明な点が多いため、今後は周辺地域の地層との関係を調査し、層序を明らかにする必要がある。

謝辞

今回の報告にあたり、南さつま市立万世小学校の榊俊輔氏には、貴重な化石を御提供いただいた。また鹿児島大学総合博物館特任助教の田金秀一郎氏には同定とオオバタグルミについての御教示をいただいた。鹿児島県地学会の神信裕氏には産出地の地質について御教示をいただいた。心より感謝の意を表す。

引用文献

- 長谷義隆・村瀬聖文・堀江一教(2019)熊本県上天草市大矢野湯島層産クルミ堅果化石. 御所浦白亜紀資料館報(20):35-38.
- 大木公彦・下山正一・佐藤亮・成尾英仁(2000)鹿児島県,阿久根市から発見された第四紀海成層「多田層」の層位学的意義. 鹿児島大学理学部紀要(33):61-68.